

いじめに関連するニュース番組の傾向と課題 —いじめ防止対策推進法施行後に放送された番組の内容分析—

藤原幸子 (吉備国際大学)

キーワード：いじめ，ニュース番組，内容分析

問題と目的

メディアは社会問題の実態を伝え、解決に向けての情報を提供するうえで大きな意味を持つ。いじめ防止対策推進法の施行などいじめ問題に対してメディアが果たしてきた役割は非常に大きい。そこで本研究では、いじめを取り扱ったニュース番組に着目し、いじめ防止対策推進法施行後 5 年間の番組の推移や内容について検討することを目的とした。

方 法

調査対象紙は発行部数が多く、購読率の高い全国紙である読売新聞とした。対象期間は 2014 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までの 5 年間である。対象番組は、藤原 (2019) にて抽出したいじめ関連番組 989 本のうち、ニュース番組を再抽出した。分析データは、テレビ番組表内の地上波 6 局 (テレビ局 1, テレビ局 2, テレビ局 3, テレビ局 4, テレビ局 5, テレビ局 6) の「番組名および紹介」欄である。「番組名および紹介」欄にいじめという語を含むニュース番組を対象とした。

研究の全過程において「日本教育心理学会倫理綱領」を遵守し、研究を実施した。

結果と考察

該当するニュース番組 69 本のうち、2017 年が最も多く 23 本、放送局別ではテレビ局 1 が 30 本 (43.5%)、他民放局が 39 本 (56.5%) であった。

調査期間中、いじめはニュース番組で継続的に扱われていた。いじめを扱う番組の内容は多様であった。「いじめ事件」を扱う番組も多かったが、「予防対策」や「いじめの体験談」も扱われていた。

いじめは構造的な問題である。メディアはただいじめ事件や事実を伝えるのではなく、いじめの背景に潜む社会の構造的な問題も含めた報道をすることが必要である。

引用文献

藤原幸子 (2019). いじめ報道の実態に関する研究—いじめ防止につながる報道のあり方について考える— 日本福祉心理学会第 17 回大会プログラム・発表論文集, 66.

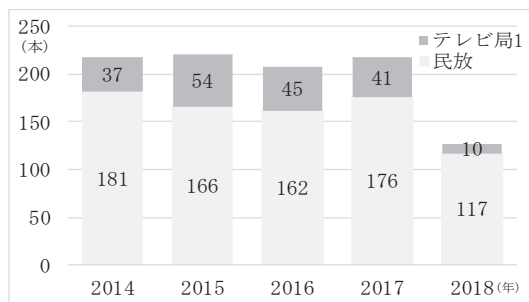


Figure 1 いじめ関連番組の推移

Table 1 いじめを取り扱ったニュース番組の推移

		全体 N (割合)	2014 N (割合)	2015 N (割合)	2016 N (割合)	2017 N (割合)	2018 N (割合)
放送局	テレビ局 1	30 43.5	1 10.0	7 38.9	2 15.4	17 73.9	3 60.0
	民放	39 56.5	9 90.0	11 61.1	11 84.6	6 26.1	2 40.0
季節	春 (3月-5月)	19 27.5	2 20.0	4 22.2	2 15.4	9 39.1	2 40.0
	夏 (6月-8月)	24 34.8	4 40.0	8 44.4	2 15.4	9 39.1	1 20.0
	秋 (9月-11月)	15 21.7	1 10.0	3 16.7	7 53.8	2 8.7	2 40.0
	冬 (12月-2月)	11 15.9	3 30.0	3 16.7	2 15.4	3 13.0	0 0.0
曜日	月	13 18.8	2 20.0	3 16.7	1 7.7	6 26.1	1 20.0
	火	13 18.8	3 30.0	4 22.2	1 7.7	4 17.4	1 20.0
	水	13 18.8	2 20.0	2 11.1	5 38.5	4 17.4	0 0.0
	木	12 17.4	1 10.0	3 16.7	4 30.8	3 13.0	1 20.0
	金	10 14.5	1 10.0	3 16.7	1 7.7	4 17.4	1 20.0
	土	7 10.1	1 10.0	2 11.1	1 7.7	2 8.7	1 20.0
	日	1 1.4	0 0.0	1 5.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
時間帯	05:00-11:59	3 4.3	0 0.0	1 5.6	0 0.0	2 8.7	0 0.0
	12:00-18:59	25 36.2	4 40.0	10 55.6	4 30.8	5 21.7	2 40.0
	19:00-23:59	36 52.2	5 50.0	5 27.8	9 69.2	14 60.9	3 60.0
	00:00-04:59	5 7.2	1 10.0	2 11.1	0 0.0	2 8.7	0 0.0